

CS-77

建設事業における土木史

建設省土木研究所 正員 舟橋弥生

建設省土木研究所 長野幸司

建設省土木研究所 正員 寺川 陽

1. はじめに

近年、個性的で魅力ある地域づくりに対する国民のニーズは高まってきている。地域の個性とは、その地域を囲む自然、その地域が経てきた歴史、及びその地域のもつ文化であり、川を治め、道を開き、まちをつくってきた土木は、地域の歴史形成の中で大きな役割を果たしてきたといえる。

すなわち、土木の歴史を学ぶことは、人と自然との関わりやその中で培われてきた文化を含む地域の歴史を学ぶことであり、これからの地域づくりを行っていくうえでおさえておくべき重要な課題である。

本稿は、以上のような認識のもと、建設省で行われている土木史に関わる取り組みについて報告する。

2. 建設省における取り組み

2.1 建設省の方針

建設省が平成8年6月25日に決定した『文化を守り育む地域づくり・まちづくり基本方針』の中で「・・・今後、21世紀の豊かな社会の実現に向けた生活空間や社会資本ストックの整備を進めるに当たっては、これまでの環境や景観といった視座から捉えてきた「文化」を、改めて歴史的・社会的視野を含めた独立した枠組みとして捉え直すことにより、住宅・社会資本そのものが文化の一翼を担う重要な要素であること、そしてその整備を担う建設行政は極めて重要な使命を負っているということを再認識し、我が街や地域への愛着と誇りをもっていつまでも住み続けたいと思うような、また、誰もが再び訪れたいと願うような文化の香り高い地域づくり・まちづくりを進めていくことが、建設行政の責務である。」とあるように、社会資本整備については、これまで進めてきた地域の歴史文化の尊重や新たな文化の創造・醸成への配慮をさらに拡大し、環境、福祉等と同様に「文化」を内部目的化することとしている。

また、道路行政においては、「歴史国道」整備事業として、歴史上、広域的な道路として利用され、国として特に重要な歴史的・文化的価値を有する道路について、その整備、保存及び活用を図ることとしている。現在までに24ヶ所が「歴史国道」として選定されており、地元民間団体を含む関係機関が協力して整備計画を策定し、それぞれの役割分担のもと整備をすすめている。

2.2 各工事事務所での取り組み

建設省の各工事事務所においては、地域で直接事業を実施する立場で、土木に関わる地域の歴史資源発見・活用のため積極的に様々な取り組みを行っている（表1）。

取り組みについては、現存する歴史的価値ある構造物単体を地域の文化資産として保存・活用していくケースが最もわかりやすい形であるといえる。だが、それ以外にも、本来、土木事業においては、個々の構造物はあくまで結果に過ぎず、それらを生むに至った自然的、歴史的、人為的経緯及びそこから生まれた計画こそが重要であると考え、各事務所が独自の観点から調査を行い歴史資源の発掘や資料館の整備を行っているケースなどがある。

このような各事務所で行われた取り組みに関する情報の公開についてはパンフレット、小冊子、情報誌の発行及び本の出版等が行われているが、最近では福島工事事務所や東京国道工事事務所のようにインターネットのホームページ上での地域歴史資源情報の発信を行う事務所も増えつつある。

キーワード：土木史、建設事業

〒305-0804 茨城県つくば市大字旭一番地 TEL 0298-64-2269 FAX 0298-64-7221

表1 各事務所における取り組み事例

事 例	事 務 所	取 り 組 み 内 容
地域資源の発掘		
万世大路を歩く会	福島工事事務所	先人の幾多の労苦の積み重ねによって完成した歴史的・文化的遺産をこの目で見て、歴史を振り返り、新しい発見を求め、ために、「万世大路を歩く会」が行われた。
流域の歴史データベース		ホームページ上に阿武隈川流域の暮らしにまつわるさまざまな歴史をテーマごとに分類して公開している。
都内の名所・旧跡案内	東京国道工事事務所	「道が繋ぐひと、モノ、むかしと今」というテーマで都内の国道の現在と過去の状況についてホームページ上に公開した。
峠の歴史	高山国道工事事務所	飛騨にある峠の歴史や文化・自然などの現状や変遷を調査し、報告書としてまとめている。
治水の歴史をたずねて	琵琶湖工事事務所	琵琶湖湖水にまつわる散歩道として、人々が琵琶湖と関わってきた歴史の跡を小冊子にまとめている。
淀川オランダ技師文書 — 欧文関連編 —	淀川工事事務所	明治期淀川改修に従事していたオランダ人技師の文書を当時の技術について検討できるかたちに翻訳して出版。
高地蔵探訪ガイドブック	徳島工事事務所	吉野川流域に点在する高地蔵を調査し、その建立年、高さ、洪水の歴史との相関や衛星写真を融合させたハザードマップを作成し小冊子にまとめている。
北九州の五街道を往く	北九州国道工事事務所	小倉などを起点とする旧街道と現在の国道を対比させながら、その歴史や沿道の町を紹介する地図型のパフレットを発行。
加藤清正の川づくり ・まちづくり	熊本工事事務所	熊本の今日の姿の基礎を築いた加藤清正が行った治水・利水事業を見直し、現代の河川工法と比較したものを小冊子にまとめている。
資料館の整備		
信濃川大河津資料館	信濃川工事事務所	信濃川治水百年事業の一つとしてつくられた。館内には、信濃川と大河津分水に関係のある資料が収集、保存され、模型や写真と共に公開されている。
木曾川文庫	木曾川下流工事事務所	木曾三川に関する各分野の図書・研究論文等の収集保存を図り、先人の偉業を顕彰し、併せて今日的な治水のあり方を学ぶ場としてオープン。
淀川資料館	淀川工事事務所	淀川改修に関連する学術・歴史考察にとって貴重な文献や諸資料を保管し、地域住民に閲覧してもらうことを目的とする。
歴史的施設の整備・活用		
横利根閘門	利根川下流工事事務所	利根川舟運の歴史と伝統の活用を整備方針として横利根閘門の保存と周辺整備を行っている。
船頭平閘門	木曾川下流工事事務所	船頭平閘門の保存を旧閘門の風情を著しく変貌しないように配慮して行っている。周辺は船頭平河川公園として整備している。
石井樋	武雄工事事務所	成富兵庫茂安の手がけた石井樋の活用。現在、建設省、佐賀県、佐賀市及び大和町が一体となり嘉瀬川水辺プラザの整備をすすめている。
名島橋	福岡国道工事事務所	架橋 60 周年を記念して建設当時の姿に復元し、橋のもとに河畔公園を新設。
歴史的施設の公園利用		
国営木曾三川公園	木曾川下流工事事務所	木曾三川公園センター内に学習施設として輪中の農家の水屋を復元している。
国営吉野ヶ里歴史公園	国営吉野ヶ里 歴史公園工事事務所	「弥生人の声が聞こえる」をテーマに、我が国固有の優れた文化的資産である「吉野ヶ里遺跡」の保存と活用を図るために設置。

3. まとめ

以上、建設事業と土木史のかかわりについて、建設省における取り組みを紹介した。今後とも各地域における土木史の重要性の認識と建設事業におけるその積極的な活用に取り組んでいく必要がある。

参考文献

文化庁歴史的建造物調査研究会：建物の見方・しらべ方 近代土木遺産の保存と活用，ぎょうせい，1998。